〔ボール式〕取扱説明書
検査孔付可とう管ガス栓
配管用フレキ管接続タイプI型

お願い
この製品はツマミ開、閉操作が押し回しになっております。真上より確実に押し回しをされます様お願いします。

配管用フレキ管接続タイプL型の説明は裏面にございます

(特徴)
1. 従来通りの可とう管ガス栓としてご使用できます。
2. 配管の空気抜き及び気密検査ができます。(両側検査)
3. 上流側の気密検査、空気抜き又は、下流側の気密検査ができます。(片側検査)
4. 燃焼圧が測定できます。

(取付工事上の注意)

ガス栓の取付においては、ガス栓本体側面にガスの流れ方向が矢印(➡)で表示してありますので、これに従って取付けて下さい。

(気密検査及び空気抜きの方法)

A 下流側の気密検査(図1)
1. ガス栓のツマミを閉にする。
2. 記録計のホースにソケットを装着する。
3. 検査孔キャップを取り外し、記録計と接続します。

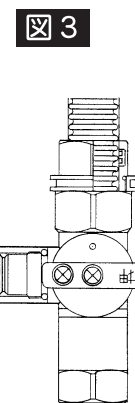
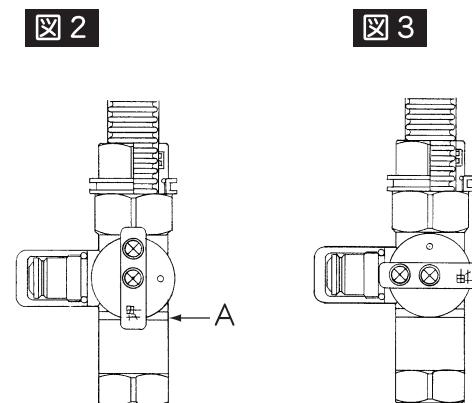
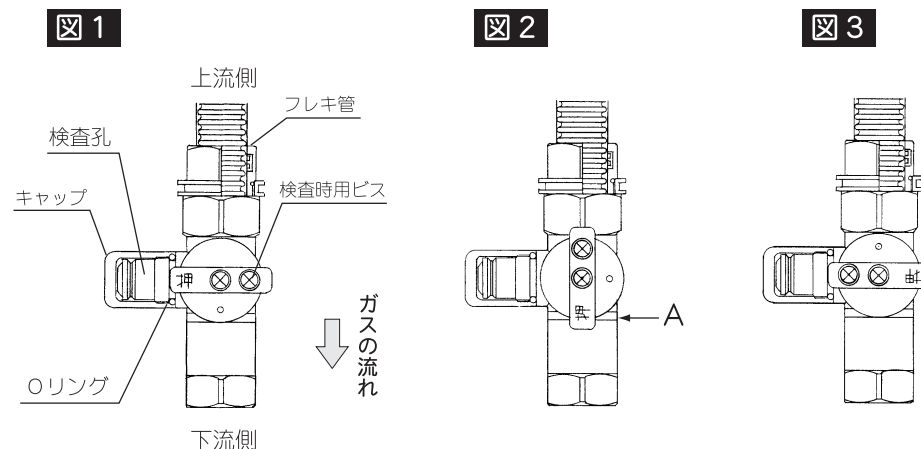
B 上流側及び下流側の同時気密検査(図2)
1. ガス栓のツマミを開にする。
2. 上流側ガス栓又は容器バルブを閉にして配管にガスを封じ込める。
3. 記録計のホースにソケットを装着する。
4. 検査孔キャップを取り外し、記録計と接続します。
(ガスを流せばこの状態で燃焼圧の測定も可能)

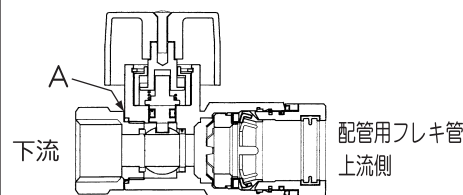
C 上流側の気密検査及びソケット開放で空気抜き(図3)
1. ガス栓のツマミを閉にする。
2. 上流側ガス栓又は容器バルブを閉にして配管にガスを封じ込める。
3. ツマミの検査用ビスを+ドライバーで、ビスの頭をツマミの表面と同じ位置まで緩め、ツマミを通常閉よりさらに時計方向に180度回転させる。
4. 記録計のホースにソケットを装着する。
5. 検査孔キャップを取り外し、記録計と接続します。
(ガスを流してソケットだけをプラグに装着して開放すれば空気抜きが行える。)

(検査用ビスの戻し方)

ハンドルを図2の状態に戻し、緩めたビスを元通り締め付けてください。

(検査孔キャップの取扱い注意事項)

1. 取付ける前にOリングがプラグ根元に付いていることを確認して下さい。

⚠ 警告
・矢印A部は右回転(右ネジ)にて締め付け接続してあります。
・左回転に負荷を掛けると緩みガス漏れの原因になります。

ワンプッシュタイプ配管用フレキ管接続 I 型

燃焼機器直接続工事に携わる方へのお願い

!警告
・ガス栓とガス燃焼機器の接続工事は、液化石油ガス設備士の方が正しく施工して下さい。
・工具はモンキーレンチを使用して下さい。(パイプレンチは使用しないで下さい)
・フレキ管には不必要な曲げを加えないで下さい。
・接続工事終了後、漏洩検査を実施して下さい。
・燃焼機器を交換する場合は自在ナット側から行ってください。
※フレキ管接続部分は絶対に緩めないで下さい。

【施工上の注意】
!注意
・接続部にゴミなどの異物の無いことを確認して下さい。
・自在ナットを燃焼機器に直接接続して下さい。
・ガス栓の自在ナットを燃焼機器接続口へ手で充分ねじ込んで下さい。
・更に工具を使用して自在ナットを締め込んでください。
・施工後はガス栓の開閉が円滑に行われることを確認した後開栓にして下さい。